

薫風、木漏れ日に浸りながら、昼休みの 1 時間弱を警視庁音楽隊の「水曜コンサート」を聴いて過ごした。生来の音痴で、音楽に縁の少ない小生であっても、幸せになるから不思議である。



(携帯カメラで撮影したため不鮮明、御容赦を)

専門家ではない我々にとっては、司会による簡潔にして要を得た説明や案内は大いなる手助けである。そういうものなのかな等と思いを馳せながら聞けば、そのように聞こえてその曲の中にのめり込んでしまうから不思議である。因みに本日の曲目は、祝典行進曲、映画「追憶」の主題歌、ティコ・ティコ、歌劇「ウインザーの陽気な女房達」序曲、幻想曲「幼い日の思い出」など 9 曲である。指揮者が、小生が若かりし頃に入校した英語課程で同期であった中央音楽隊長の体型そっくりだったから可笑しなものだ。あの体型でなければ隊長になれないなんてことはあるまいが・・・。(済みません。)

考えてみれば、当社に入社 1 年余り、日比谷公園小音楽堂は小生の昼の散策コースに該当しており、水曜コンサートがある事に気付いていなければならなかった筈だが、不可思議なこともあるものだ。

昨日は皇居二の丸公園の躑躅や如何と散策に行き、大手門から入り、平川門に抜けたが、会社への帰途、東京消防庁音楽隊が、「ビルの谷間のコンサート」と銘打って昼休み屋外コンサートを消防庁構内で実施していたのを確認し、私が関係した部隊でも色々やっていたことを思い出した次第である。

日比谷公園小音楽堂における都民コンサートは、終戦間もない、昭和 24 年(1949)に始まっており、その歴史は 50 年を優に超える、知る人ぞ知る、伝統ある屋外コンサートである。警視庁音楽隊と消防庁音楽隊が、クラシックからポップスまでの幅広い名曲を演奏して聴衆を楽しませてくれている。

演奏時間は、正午から午後一時までであり、勿論料金は無料である。

水曜日が警視庁音楽隊、金曜日が消防庁音楽隊である。本日配布されたチラシによれば、主催は、財団法人東京都歴史文化財団、東京芸術劇場であり、共催として東京都と毎日新聞社が名を連ねている。定点定時のコンサートであるので、天気の良い日には出掛けてみたら如何だろうか。

小生はかつて第一師団に勤務していたが、その際に師団音楽隊の、確か通称「水コン」を視察に行ったことがある。東部方面総監部の広報に確認した所、かつては 1 師団音楽隊と東部方面音楽隊が実施していた昼休みの屋外コンサートが拡大されているようだ。

演奏部隊は、陸自が従来から実施していた東部方面音楽隊、第 1 師団音楽隊に加え、中央音楽隊(中音は昔から実施していた?)や第 12 音楽隊、海上自衛隊東京音楽隊や航空自衛隊中央音楽隊が参加し、米陸・空軍音楽隊まで参加しているようだ。

場所も数箇所を回しているようで、日比谷シティと霞ヶ関ビル(以上は火曜日)、赤坂の国際新赤坂ビル(水)、新宿三井ビルと池袋西口公園広場が木曜日である。

広報室担当者に依れば、平均的聴衆数は 400~500 名程であり、多い時には、800 名ほどにもなるらしい。興味と感心のある方は、東部方面総監部広報室(048-460-1711 内線:2612)

に問い合わせれば貰えれば詳細な情報が得られるだろう。

自衛隊、警視庁、消防庁の夫々の音楽隊が行なう屋外コンサートは、何れも好評の用だ。屋外なるが故に雨天中止になるのは致し方ないことではあるが、地域住民や勤め人の中にはそれらのコンサートを楽しみにしている方も多いと聞く。本日(25日)の水曜コンサートには当社、同一階に勤務する顔見知りの女性陣を見かけた。聞けば、毎回のコンサートを楽しみにしている由。

どちらかと言えば、潤いの少ない大都会のコンクリートジャングルの、ストレスの溜まる勤務時間の間にある貴重な昼の休憩時間に音楽に癒されている。

東京都内でこの様なコンサートがどれ位実施されているのか、知る由もないが、有り難いことである。都会なるが故の楽しみなのかもしれない。